

(総括評価表) 3 熊本地震からの創造的復興

現状と課題

- 熊本地震からの復旧・復興は、県民一丸となった取組みにより、着実に進んでいます。
- 最重要課題である「すまい」の再建については、仮設住宅入居者の約99%に当たる4万7千人の方々が住まいの再建を実現するとともに、いまだ仮設住宅で生活されている方々についても、自宅の再建が進められています。
- また、令和2年(2020年)8月のJR豊肥本線の全線運転再開や、10月の国道57号北側復旧ルート及び現道の開通に加え、令和3年(2021年)3月には国道325号阿蘇大橋ルートが開通しました。南阿蘇鉄道についても、令和4年度(2022年度)末の復旧工事完了を予定しており、阿蘇へのアクセスルートは着実に回復しています。
- さらに、阿蘇くまもと空港においては、令和2年(2020年)4月に熊本国際空港株式会社による空港運営が開始され、令和5年(2023年)春の新しいターミナルビルの完成に向けて準備が進むなど、大きな変革を見せています。
- 一方で、住まいの再建や被災企業等の支援、益城町の復興まちづくりなど、引き続き取り組むべき課題があります。

取組みの方向性

- 熊本地震からの創造的復興の総仕上げに向け、残された課題を確実に解決し、熊本の更なる発展につなげます。

(1) 実現に向けた施策

施策1 くらし・生活の再建

【具体的な施策】	R5	事業数	予算額
		7	421,695千円
① 「すまい」の再建			
② 被災企業の事業再建			

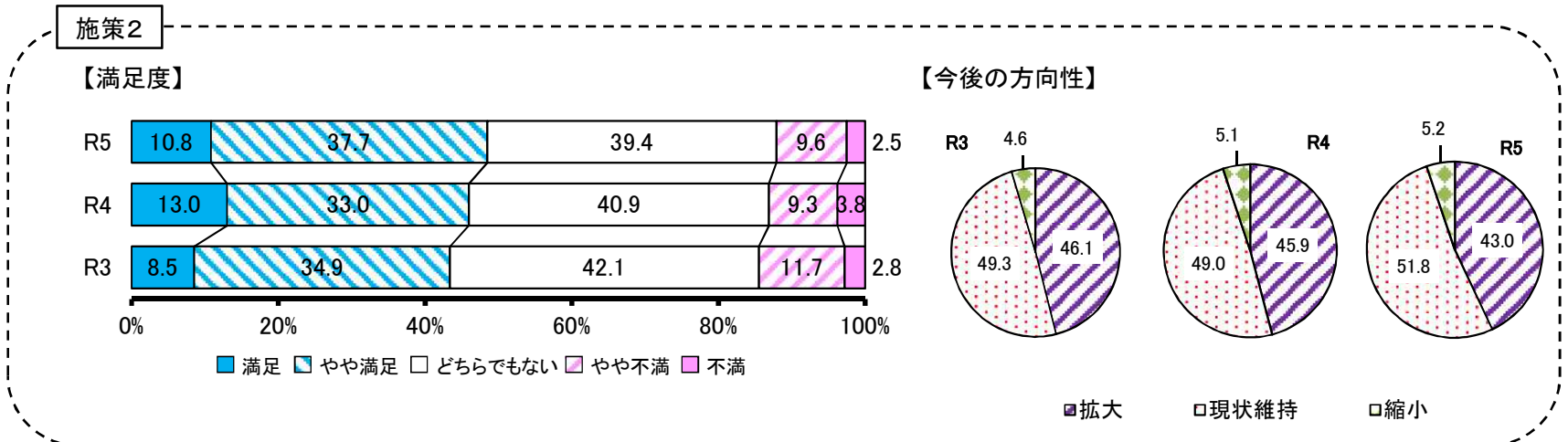
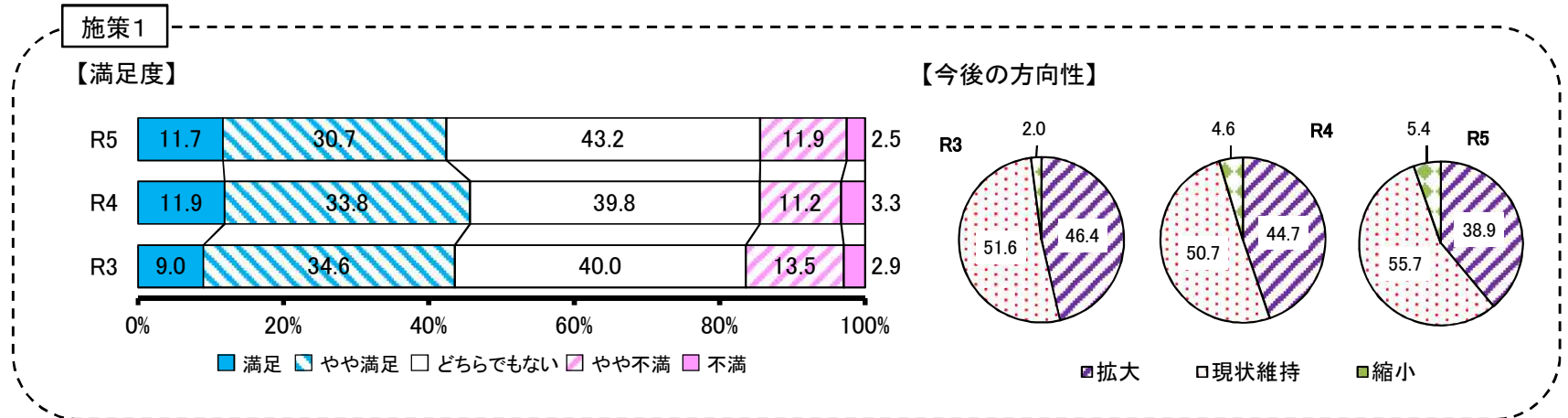
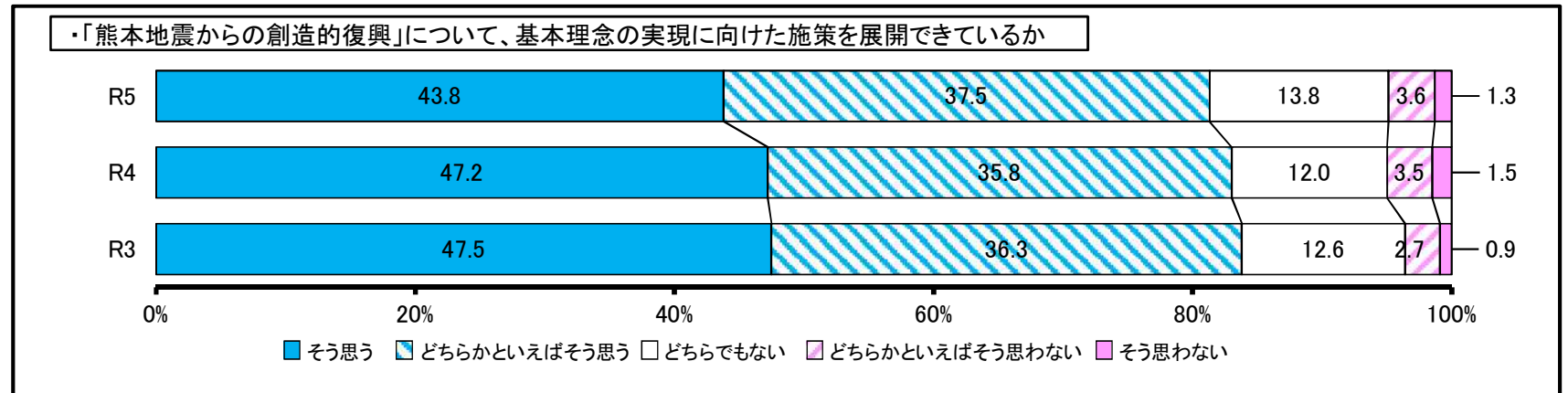
施策2 創造的復興の推進

【具体的な施策】	R5	事業数	予算額
		20	8,424,915千円
① 益城町の復興まちづくり			
② くまもとの誇りの回復と宝の継承			
③ 阿蘇地域の振興			
④ 「大空港構想」の実現			

(2) 重要業績評価指標 (KPI) の動向

No.	評価指標	戦略策定時実績値 (R1)	戦略策定時実績値 (4年累計平均)	R2実績値 (R3評価)	R3実績値 (R4評価)	R4実績値 (R5評価)	単位	指標の動向 (策定時との比較)	指標の動向 (前年度との比較)	目標値の達成状況を評価する実績値	目標値 (R5)	種類	達成状況
施策2 創造的復興の推進													
30	益城町市街地部の人口回復率	19%	—	35	48	66	%	↗	↗	66	50%	累計	☆
31	熊本と阿蘇の交通量の回復状況	32,700台/日	—	37,800	38,600	国調査終了	台/日	—	—	国調査終了	39,400台/日	単年	
32	空港周辺における新産業振興策(UXプロジェクト)の取組みに係る企業・団体等の参加数	—	—	12	36	261	企業・団体等	↗	↗	309	40企業・団体等/4年	4年累計	☆

(3) 県民アンケート



(4)令和4年度の主な成果・今後の課題や方向性

令和3年度の主な成果	今後の課題や方向性
------------	-----------

【施策1】くらし・生活の再建

①熊本地震からの住まいの再建について、県独自の「6つの支援策」により、熊本地震におけるピーク時(H29年5月)の被災者47,800人のうち、約99.9%に当たる約47,790の方が住まいの再建を果たした。公共工事により自宅の再建等に時間を要する方々については、仮設住宅の供与終了後に、県と益城町による独自支援により災害公営住宅等に入居いただき、仮設住宅よりも快適な住環境を提供するなど、支援を継続した。

②被災者の見守りやコミュニティづくりについて、益城町及び西原村における地域支え合いセンターの運営支援や、地域の縁がわ団体への補助等の支援を行って、被災者の見守りやコミュニティづくりを支援した。

③被災事業者の再建支援について、グループ補助金を活用して再建を目指している事業者のうち、99.9%の復旧が完了した。また、特任経営指導員により、再建途上にある被災事業者76者に対して、資金繰りや販路拡大等に関する経営支援を行った。

①公共工事の影響で自宅再建を果たされていない方については、益城町と連携し、一人ひとりに寄り添い、全ての方の住まいが再建されるまで支援を行っていく。

②仮設住宅を退去した後も必要な支援が受けられるようにするため、市町村や地域支え合いセンターと連携し、被災者の状況に応じて、既存の福祉サービスへの移行や地域全体での見守りを進める。

③個別事業者の課題に対してきめ細かな支援を継続するとともに、益城町の土地区画整理事業の完了を待つ事業者に対しても、県単独予算のグループ補助金により最後の1者まで支援する。



「すまい」再建6つの支援策

コミュニティ形成支援



グループ補助金を活用して復旧したホテル(阿蘇)

【施策2】創造的復興の推進

①益城町の土地区画整理事業について、R4年度までに仮換地指定が約8割となり、造成工事が完了した145画地を権利者に引き渡した。また、県道熊本高森線4車線化については、熊本市から益城町広崎までの約800m区間について、本事業初となる4車線での供用を開始し、復興後の姿が目に見える形となった。

②阿蘇の世界遺産暫定一覧表入りへ向けて、学術委員会等を開催し、阿蘇の学術的価値の更なる整理を行うとともに、世界文化遺産資産候補地の文化財保護法による法的保護率向上を図るため、阿蘇市、産山村の北外輪山等の草原を重要文化的景観として追加選定した。また、阿蘇世界文化遺産登録推進協議会で太陽光発電施設景観配慮ガイドラインを策定し運用を開始した。

③南阿蘇鉄道について、災害復旧工事がR4年度末に完了し、R5年7月の全線運行再開及びJR豊肥本線乗入れの実現に道筋をつけた。また、(一社)南阿蘇鉄道管理機構を設立し、上下分離方式導入による事業構造の転換及び関係機関と連携した利用促進策の推進を図った。

④空港アクセス鉄道の検討について、TSMCの進出決定等を受け、三里木・原水・肥後大津ルートについて調査を実施した。その結果を踏まえた検討委員会の意見や、JR九州との協議を経て、「肥後大津ルート」とすることを表明した。

⑤阿蘇くまもと空港の新旅客ターミナルビルについて、R4年度末に開業した。また、TSMC進出を踏まえ、国際航空貨物輸送先の見込み等に関する調査研究事業や空港開業に係るプロモーションの実施、チャイナエアラインによる台北チャーター便を実現した。また、当該便を活用した台湾への国際航空貨物実証輸送を実施した。

⑥UXプロジェクト*について、社会課題解決に繋がる実証実験テーマを募集し、路線バス事業者5社によるノーマイカーデーの実証実験など、4件を支援した。また、Pre-UXイノベーションハブ*では、イベントの開催等を通して、開設後800人以上が施設を利用し350を超える企業・個人が会員登録するなど、プレーヤーの交流を推進した。

①引き続き権利者への丁寧な説明を行い、仮換地指定の早期完了を目指していく。また、県道熊本高森線4車線化についても、地権者が生活再建や生業継続に不安を抱かぬよう、町と連携して丁寧に交渉を進め、残区間の早期完成を目指す。

②学術委員会等を開催し、世界文化遺産としての価値の深化を図る。また、重要文化的景観選定に向けた全域調査等を実施して法的保護措置を進めるとともに、ガイドラインの着実な運用等により、景観の保全も行う。

③関係機関と連携し、R5年7月の全線運行再開及びJR豊肥本線乗入れに向けた取組みを推進する。

④空港アクセス鉄道の検討について、具体的なルートを検討するための地形測量や環境アセスメントに関する配慮書・方法書の作成等を行い、事業化に向けた検討を深める。

⑤国内・国際線の各種助成事業等を実施し、運休路線の復便、既存路線の利用拡大及び新路線開設に向けた取組みを継続する。特に、TSMC進出に伴い、航空需要が見込まれる台北線の実現及び高雄線、香港線の早期復便を目指すとともに、国際航空貨物輸送拡大に向けた通関環境の早期整備を図る。

⑥更なる周知やビジネスのマッチング機会提供に向けて、ビジネス創出に主眼を置いた実証実験や、恒常的な販売の創出を支援する体制の構築、イノベーションハブ整備のための検討・調査等を実施する。



県道熊本高森線の4車線化



阿蘇カルデラ国際ワーキンググループ(学術検討)



「南阿蘇鉄道」災害復旧工事完了



「空港アクセス鉄道」肥後大津ルート



「阿蘇くまもと空港」新ターミナルビル開業



Pre-UXイノベーションハブ オープニングイベント

* UXプロジェクト：空港周辺地域を拠点に、人・もの・技術・情報が集まる“知の集積”を推進し、医療、介護、健康、食、ビューティー、農業など熊本の強みを活かせる分野における新産業創出を目指すプロジェクト。
 * Pre-UXイノベーションハブ：UXプロジェクト推進のため、人的・技術的な交流拠点として、テクノリサーチパーク内に設置された施設。